

国語科学習指導案

研究主題

楽しい授業を作るための支援・指導の工夫

1. 期日 平成24年10月23日（火）

授業研究	14:00～14:45
協議会	15:00～16:30
講師	養護教育センター相談員 新田江美子先生

2. 内容

单元名
楽しく読もう 「あいうえおうさま」寺村 輝夫著（理論社出版）

国語科学習指導案

1、単元名 楽しく読もう「あいうえおうさま」

2、単元について

(1) 学習内容

本学級は、知的障害児学級 2 学級（9 名）と情緒障害児学級 1 学級（2 名）の 3 学級で 11 名の児童が在籍している。2 年前、5 名というたくさんの新入生を迎え、小規模学級から中規模学級へと学級は変貌した。発達年齢は 1 歳未満レベルで発語もない児童から、知的発達レベルは 12 歳の通常学級レベルの児童まで在籍しており、2 年間、それぞれのニーズに合わせた指導内容や指導方法、指導体制などを複数担任の良さを最大限に生かし、模索しながら進めてきた。今年度も、どの学習においても、個別の課題や一人一人の目指す姿を担任間で共通理解しながら明確にし、単元を構成できるように努力している。

また、指導する内容によって合同で行う学習（主に生活単元学習の一部・朝の会・清掃指導・給食指導・体育・音楽・図工など）とグループに分けて行う学習（主に国語や算数など）の二通りの学習体制で進めている。特に国語の学習では、発達段階に著しい差があることから、学習の成果を発表したり、話し合いをしたりするような場面を合同で行い、基礎的な学習は 3 グループに分かれて進めている。全体学習の中では、発言することの難しい C グループの子どもたちも「できた」「やった」と満足ができる活躍の場を設けることを心掛け、学習内容を長くても 15 分に区切りながら集中して授業に取り組めるようにしてきた。今年度 4 月より「はらぺこあおむし」という絵本を教材に取り上げ、飛び出す絵本を用いた読み聞かせを行い、一つ一つの場面の絵を描かせてみると、初めて自分で意味のある絵を描けた児童もいた。視写や色塗り、文字の視写などにも意欲を持って取り組むことができた。一人一人自分なりの「はらぺこあおむし」の絵本を作り上げ、達成感を味わうことができた。また、学習時間の途中でジャンボカルタを使って体を動かして楽しく活動する場面を設定したところ、最後まで学習に取り組めるようになってきた。そこで、9 月より「あいうえおうさま」という絵本をそれぞれの課題に合わせて取り組んでみようと考えた。この絵本は、読み継がれている寺村輝夫氏の「ぼくは王さま」をはじめとする「おうさま」シリーズの一つで、文字と言葉を興味を示し始めている C グループの子どもたちにとってなじみやすく、「王さま」のキャラクターにも興味を持って取り組めると考えたからである。また、あいうえお順にいろいろな言葉が各ページに出てくるので、言葉探しや文字遊びをしたり、身体表現したりできる教材である。それぞれのページを見て、言葉のイメージをつかんだり、声に出して読んだりすることによって、正しい発音・発声・間・リズム・強弱・イントネーションなどを身に付けることができ、絵本の楽しさを感じとることができるであろうと考えた。さらに、C グループの児童にとって、大好きな絵本の中にこの「ぼくは王さま」シリーズも広げていきたいと考え、本単元を設定した。

(2) 実態について

C グループは、ひらがな文字を選んだり、できる限りたくさんのひらがなを発声・発音したりできることを課題とする児童 4 名のグループで構成した。C グループの児童は、発語はあっても単語やオウム返し程度の子どもたちである。人との関わり合いを積極的に自分からすることが好きな児童 2 名と 1 対 1 での声掛けでの対応が必要な児童が 2 名。昨年度と比べて、どの子も発音できる音が増えてきている。また、「トイレ」「あそび」など自分の要求を言葉で伝えようとする児童、語尾だけではあるが音声での模倣をする児童など発達段階はそれぞれ違うが、共通して、体を動かしながら楽しく活動すれば一緒に学習する楽しさを感じ、友達や先生と話したい、ひらがなを書いてみたいと意欲を持って学習できるグループである。

本グループの児童の実態を特別支援学校学習指導要領に沿って表にすると次の表のようになる。太線内は本単元で重点的に取り上げたい内容である。

段階	観点・内容	A	B	C	D	
聞く・話す	1段階 (1)	教師の話の聞いたり、絵本を読んでもらったりする。(反応する)	○	○	○	○
	1段階 (2)	教師の話しかけに応じる (返事・音声で模倣)	○	○	○	△ 個別に呼名すれば 反応する
		表情、身振り、音声や簡単な言葉で表現する	△ オウム返しはする 「おしっこ」「おかわり」は自分から意思表示する。	○ 「あそぼ」「ボール」「先生」「かると」などの自分の要求は言える	△ 表情豊か。気が向けば模倣する 要求は身振りで表現する	△ 1対1で語尾のみ模倣
	2段階 (1)	教師や友達などの話し言葉に慣れ、簡単な説明や話し掛けが分かる	△ 1対1で対応し、こだわりが強くない時は反応する	○	○	△ 「○○もってきて」「電気消して」などは理解でき、行動できる
	2段階 (2)	見聞きしたことなどを簡単な言葉で話す	×	△ 「あそんだ」「えんした」程度	×	×
	3段階 (1)	身近な人の話を聞いて内容のあらましが分かる	×	×	×	×
3段階 (2)	見聞きしたことのあらましや自分の気持ちなどを教師や友達と話す	×	×	×	×	
読む	1段階	教師と一緒に絵本などを楽しむ	△ 1対1で対応すれば目を向ける。	○ 自分の好きな絵本を持ってくる	○ 自分で本を選んで持ってくる	△ 目の前に本を置けば目を向けられる
	2段階	文字などに関心を持ち、読もうとする。	△ 漢字も読めるが、機械的に覚えている	○	△ 選べるひらがなは10文字程度。	×
	3段階	簡単な語句や短い文などを正しく読む。	×	△ ひらがなは20文字程度読める	×	×
書く	1段階	いろいろな筆記用具を使って書くことに親しむ。	○	○	○	○
	2段階	文字を書くことに興味を持つ。	○ 指示通りに簡単な漢字まで書ける	○	△ 横に手本があれば視写ができる	△ 手本を下に重ねてなぞり書きをする
	3段階	簡単な語句や短い文を平仮名で書く。	△ 物と文字が一致していないことが多い。	△ 視写ができるが、濁点が抜ける。	×	×

3、単元の目標

- 教師の読みを真似して楽しく読もうとする。(聞く・読む)
- 絵を見て、いろいろなものの名前をひらがなブロックで並べることができる。(読む)
- 単語の視写やなぞり書きができる。(書く)

4、指導計画（24時間扱い）

次	小単元（時数）	学習内容	支援の手立て
1	「あいうえおうさま」を 聞こう（3）	○これから学習する「あいうえおうさま」の全文の読み聞かせを聞き、興味を持つ。 ○学習の流れを理解する。 ○ひらがなブロックの遊び方を知る。	○「あいうえおうさま」の大型絵本を使って児童に興味させる。 ○王様の冠やマントを使って雰囲気作りをする。
2	いっしょに読もう （20）	○リズムに乗って一緒に読む。 （本時は9/20 「そ・た」の場面） ・「どれかなどれかな」と絵探しをして、指さしで確認する。 ・二人組でひらがなつみきで単語並べをする。 ・できたひらがなをプリントに書いたり、視写したり、なぞり書きしたりする。	○大型テレビを使い、視覚的に惹きつけられるひらがなの提示をする。 ○ひらがなつみきを並べる際には、楽しく活動できるように十分なスペースを作る。 ○一人一人の実態に合わせてプリントを作成する。
3	はっぴょうしよう（1） （3グループ合同）	○各グループの学習の発表を聞く。 ○自分の選んだ場面を王様になりきって発表する。	○それぞれの学習のまとめとして3グループ合同で行う場を設定する。

5、研究主題との関わり

楽しい授業を作るための支援・指導の工夫

（1）主題解明の手立て ○・・・全体に関わるもの ◎・・・本時に関わるもの

自己表現力を高め生かすための単元・題材開発と単元構成・学習過程の工夫

〈児童の興味・関心を生かし、意欲化を図るための単元構成・学習過程の工夫〉

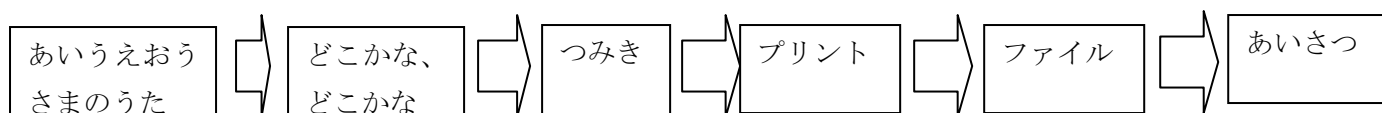
○絵本選び

絵本を教材にする上で、子どもの実態をしっかり押さえて、個々の子どもにどんな力を付けたいかを明確にして、課題に合わせた絵本を探した。Cグループの子どもたちは、話し言葉を豊かにして相互の人間関係を広げながら模倣する力を育て、学習の意欲を持てるようにすることが課題である。このような実態に合う絵本として、ストーリーが単純で繰り返しの展開があり、「これ、○○だね。」と「指さし」で表現できる場面が多くあること、模倣で読みやすいリズム感があること、親しみやすいキャラクターが登場することなどを考慮し「あいうえおうさま」を選んだ。子どもたちが興味を持ってひらがなに親しみ、あいうえお～わおんまで学習し終わった時には、表現できる言葉が増え、物や絵はひらがなで表すことができることを少しずつ理解できるようになるだろう。また、グループの児童全員で同じ絵本の同じページを開いたり、一緒に声に出して読んだりすることで、共に学んでいるという楽しさも感じながら学習に取り組めるであろうと考える。

◎繰り返しの学習過程

子どもたちに分かりやすく文字やカードで学習内容を提示したり、学習の見通しを持って意欲的に学習に取り組めるように、同じ学習過程を繰り返し組んだりすれば、学習内容が分からず集中力が途切れたり、不安になったりすることなく意欲的に学習に参加できるであろう。

＜本単元の学習の流れ＞



◎大型テレビによる視覚に訴えるひらがな文字の提示

Cグループの児童は音で聞くよりも目で見た方が意識化できる。そのため、大型テレビにできるだけ大きな文字で一文字ずつ提示したり、指示する絵を大きな画面で表示したりすることにより、視覚的に絵や文字をとらえやすくなるのではないかと考える。しかし、機械に執着してしまう側面もあるため、パソコン操作に固執させないように、パソコンは児童の目に入らないように隠し、リモコンを用いて操作をスムーズに行い、画面に集中できるようにする。提示した絵や文字は児童の困った時のヒントにも使用する。児童の様子を見ながら操作をすることで、児童は集中して活動に取り組めるようになるだろうと考える。

自分の思いを豊かに表現できる場、表現したくなる場の工夫

〈楽しい学習環境作りによる場の工夫〉

◎ひらがなブロック並べは友達と一緒に

Cグループの児童は肥満傾向のある児童が4名中3名であるため、できる限り体を動かす活動を日常生活の中で多く取り入れている。体を動かすことは学習への集中力へもつながり、効果的である。そこで、体を動かしながら大きなブロックを並べるなど遊びを取り入れながら楽しく活動させていく。また、二人組でひらがなを選んだり、ブロックを並べたりしながら、人との関わりをたくさん持たせることによって、意思表示が苦手な児童も「やってみたい」と意欲を持って取り組めるようになるだろう。友達との関わりを楽しい活動を通して共有することができるであろう。

一人一人を生かす指導と評価・支援の工夫

〈一人一人に合わせた課題の設定の工夫〉

◎個別のプリント

学習指導要領に即しながら児童の実態を把握し、子どもたち一人一人の身に付けさせたい力を明確にした。発達段階ごとに学習内容を考慮してグループを編成しても、学習する上での個人差はやはり大きい。学習内容を話ただけで学習に取り組める子、声を掛けるだけでは学習を進めることは難しく、教師と一緒に課題に取り組める子など様々である。そこで、4人という少人数体制を生かし、一人一人がその子に合ったペースで学習を進められる時間を確保し、一人一人に合ったプリントを提示する。なぞり書きが難しい児童には、なぞりやすい文字の手本（資料1参考）を下にして書けるプリントを使用することで、複雑な文字も人に伝えられる文字として書けるようになるだろう。また、視写ができる子にはプリントコーナーを作り、自分でやってみたいプリントを選んで、意欲的に取り組めるようにし、学習の達成感を味わわせていきたい。

6、本時の指導

(1) 目標

- ・教師や友達と関わり合って楽しく学習ができる。
- ・読み聞かせを楽しみ、一緒に読もうとする。
- ・指示された絵に合うひらがなブロックを並べることができる。

(2) 個別の本単元の実態・目標・支援

児童	本単元における子どもの実態	○本単元の目標◎本時の目標	個別に必要な留意事項
A	○自閉傾向があり、絵本への興味を示す場合と全く示さない場合がある。 ○ひらがな、カタカナ、1年生程度の漢字は書けるが、機械的に覚えている場合が多く、絵や物と一致する文字を書けるとは限らない。	◎自分でひらがなブロックを選んで、友達と一緒に取り組むことができる。 ○言葉を発音しながら、身体表現でも表し、言葉と絵が一致できるようにする。	◎ひらがなブロックを並べる活動の時には、テレビ画面に表した絵に合う言葉を探すように声掛けをする。 ○身体表現させる時は、名前を呼び、目を向けさせてから模倣をさせ、一緒にできたら称賛する。
B	○意欲的に学習ができる。 ○20文字程度のひらがなを自分で選ぶことができる。 ○知っている単語は自分から発音することができる。知らない単語でもオウム返しで発音することができる。 ○黒板の文字を視写することができるようになってきたが、濁点を認識できていない。	◎教師と一緒に絵本を読んだり、友達と一緒にひらがなブロックを並べたりすることができる。 ○掲示物を見ながら、絵に合う単語を視写することができる。	○自分でブロックを選んだり、並べたりできたときには称賛し、自信を持って取り組めるようにする。 ○今までの学習を振り返れるような掲示物やプリントコーナーを作り、自分で掲示物を見ながらひらがなプリントに取り組めるようにする。
C	○気分が左右されやすいが学習への意欲はある。 ○すべて母音になってしまうが、小さな声で教師の発音の模倣をするようになってきた。 ○手本が横にあれば、抵抗なくひらがなが書けるが、似たような文字「う・ら」などを判別できないこともある。	◎指示した言葉を絵本の中から自分で見つけて指さしができる。 ◎友達と一緒にひらがなブロックを選び、並び替えができる。 ○手本を見ながらひらがなを書くことができる。	○やる気は人一倍あるので、自信を持って取り組めるように繰り返し学習方法を教えていく。 ○指さしができたり、ひらがなが並べたりしたときは、称賛しながら励ましていく。 ○最後まで意欲を持って取り組めるように称賛しながら、自分でプリントを選べる環境を作る。
D	○言葉での簡単な指示「ファイル持ってきて」などがわかり、行動ができるようになってきた。 ○下に手本を置けば、上からなぞり書きをするようになってきた。	◎教師と一緒にひらがなブロックを選び、友達と一緒に並べることができる。 ○ひらがなのなぞり書きができる。	○同じ文字は選ぶことができるようになってきていたので、同じひらがなカードを提示し、「同じ。」と声を掛けながら、教師と一緒にブロックを選ぶ。 ○プリントの手本は、なぞり書きしやすい文字の手本を個別に用意し、プリントの下にはさんで書けるようにする。

(2) 展開 (9/24)

時配	学習活動と内容	教師の指導と支援	評価【評価の方法】	教材・教具
1	1. はじめの手遊びをして、あいさつをする。 ・日直の児童があいさつをする。	○一人一人の児童と一緒に手遊びしたり、日直の児童の言葉がはっきり言えた時は称賛したりしながら、学習する姿勢を整える。		・王さまのマント ・王さまの冠
2	2. 今日の学習の流れを確認する。	○カードに絵を取り入れ、文字が読めなくても学習の流れが分かるようにする。		・学習内容のカード
7	3. 「さ」「そ」「た」の場面を歌ったり指さしをしたりする。	○大型絵本で「さ」「そ」「た」の場面を提示し、同じページが開いているか確認し、開けていたら称賛しながら読み聞かせをする。 ○1 ページごとに、見つけられた言葉をみんなで指さししで確認しながら読み聞かせをする。		・大型絵本 ・児童用絵本 ・太鼓
5	4. 一文字ずつリズムを打ちながら読む。 ・テレビ画面でひらがなを確認する。 ・一人ずつ「ぞう」「たぬき」を読む。 ・太鼓で文字数を確認する。	○太鼓を用いて、ひらがなの文字数を意識づけながら確認できるようにする。 ○ひらがなの文字が視覚的に入りやすいように大型テレビで一文字ずつ提示する。 ○リモコンで操作を行い、パソコンには児童が固執しないようにする。 ○濁点を意識付けさせたいB児には、「ぞう」の濁点をシールで貼らせて確認しておく。	教師と一緒に声を出したり、身振りを模倣したりしようとしているか。【児童の様子】	・大型テレビ ・パソコン ・リモコン ・「ぞう」のひらがなカード ・濁点シール
15	5. ひらがなブロックで文字を作る。 ・青「ドラえもんチーム」A・B児、赤「アンパンマンチーム」C・D児の二人組を作る。 ・ボックスの中にひらがなブロックを並べる。 ・「たぬき」 ・「ぞう」	○ひらがなブロックは探しに声掛けが必要なA児には、文字を手前に置き、探しやすく設定する。 ○自分で探すことが難しいD児には、ひらがなカードを提示し、「同じだね」と確認しながら一緒にブロックを集める。 ○探してできた言葉を一人ずつで声に出して読み、絵とひらがなが同じ意味であることを確認していく。	二人組でひらがなブロックの文字を確認しながら並べようとしているか。【児童の様子】	・赤帽子 2 個 ・青帽子 2 個 ・ひらがなブロック ・ブロックを入れる箱
14	6. ひらがなをプリントに書く。 ・文字を視写する。 (A・B・C児) ・なぞり書きする。(D児)	○なぞり書き用(D児)、視写用(共通)、絵とことばのマッチング用(A・B児) いままでの復習用など児童の実態に合わせてプリントを数枚用意する。 ○早く終わる児童(B・C児)には、今まで学習した文字の復習が自分で選んで取り組めるようなプリントコーナーを用意する。		・今まで学習した文字の掲示物 ・児童の実態に合わせたプリント
1	7. 終わりのあいさつをする。	○最後まで学習ができたことを一人ずつ称賛し、次もがんばる意欲を持たせる。		・ファイル